

06

胸部X線について

医療の
小ネタ

胸部X線は恐らくすべての検査の中で最も情報量の多い検査法だと思います。これだけ有用な検査を身近に感じてもらわないのは勿体ないと思い、写真の説明をする度に決まった手順で患者さんと一緒に読影をしています。当院でレントゲンを撮られた方は、私がフィルムを指しながら、「両側の肺尖部、上肺野、中肺野。下肺野、心陰影、肺門部、胸部大動脈、横隔膜面…」と順に説明するのを経験しておられるはずです。この呪文^^と、過去のフィルムとの比較読影を行なえば、まず見逃しはありません。

重要な検査ですが、残念ながら撮影を拒否される方が多いのも事実です。

そのほとんどは放射線が怖いという理由です。以前は熱心に検査の必要性を説きましたが、最近は深追いしません。



ただし、人間で最も弱い胎児に影響が出始める可能性のある放射線量（閾値）は100ミリシーベルトであること、胸部X線を1回撮る際に浴びる放射線量は0.1ミリシーベルトで、レントゲンを1000枚撮ってようやく胎児に影響が出る可能性が出始める放射線量に達する、ということだけは説明します。もちろん「それでは撮ってください」という方は一人もおられません(笑)